

厳島神社：陣太鼓

陣太鼓（war drum）は侍が軍隊に動向を知らせるために使われました。戦国時代（1467～1568 年）の戦場では、地元の大名が率いる一族の間で同盟関係と敵対関係がひっきりなしに入れ替わる光景がよく見られました。太鼓には多くの大きさがありました。一人で十分持ち運べるほど小さいものもありましたが、ここに展示されているもののように重量のある太鼓は船の甲板に置かれ、海戦中に叩かれていました。この太鼓がどの一族のものかは定かではありませんが、革の上に記された九角星が特徴的です。ほとんどの陣太鼓はそのような模様の代わりに、3 つのコンマ記号のような形で構成された渦巻き模様（三つ巴）で飾られていたからです。なぜこの太鼓が厳島神社にたどり着いたのかは不明ですが、神々への方納品として、寄与した人の信仰の象徴として贈られたと思われます。